

## 2023（令和5）年度 事業報告

### ◎概況・入館者数

2023（令和5）年度は、5月8日（月）に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、2類相当から5類に変更になり、数々のイベントや催し物、飲食業等も含め多くの規制が撤廃・緩和され、コロナ前の状態に戻りつつある過渡期の年となりました。

また、今年度は、当館が立地している飛鳥山公園が、都市公園制度制定150年に当たるため、「飛鳥山公園150周年プロジェクト」として、公園の整備に加え、各種イベントが毎月開催され、多くの参加者が訪れる等、新たな公園への呼び込みも行われました。更に、地元北区が「渋沢人気」の継続を目指し、2024（令和6）年度の新札発行（一万円札の肖像が渋沢栄一翁）に向け、「カウントダウンプロジェクト」を積極的に推進しており、各種イベントが実施されていることも当館の集客に効果がありました。

また、抄紙会社設立150年の企画展を中心とした各種広報の充実を図ったこともあり、入館者数は目標の24,000名を上回り24,932名（対昨年度30.0%増）となりました。この来館者数は、リニューアル前10年間の平均に比べ、74.0%（前年度は56.9%）となり、徐々にではありますが、回復基調に入ってきました。因みに、開館日数は、エレベーター更新工事で休館のあった昨年より14日多い290日となりました。

感染症対策としては、新型コロナウイルス感染症のみならず、今季流行したインフルエンザ等へも対応すべく、以前よりは規制を緩和しつつも、職員のマスク着用の継続、法令による必要換気量の確保や3密回避等の入館制限も引き続き実施しました。

新入社員教育は、年初に通常のカンファレンスを行い、例年受講している企業を中心に、53社484名（受講者427名・引率者57名）の受講を実施することが出来ました。昨年度は25社、296名（受講者291名・引率者5名）だったので、例年の状況に戻ったと思われます。また、中学校職場体験学習（7月実施、2名）や博物館実習（11月実施、2名）の受入れを再開しました。

なお、改正博物館法が70年ぶりに昨年4月1日付で施行され、登録博物館である当館（昭和27年第4号登録）は、5年間みなし登録博物館となりましたが、早期に改正法に基づいた登録博物館への手続きを進めました結果、2024（令和6）年3月25日付で再登録（第4号登録）されました。

今年度の主要な事業活動は次のとおりです

## I 紙に関する資料の収集、保存、調査研究、展示

### 1、今年度に開催した企画展、ミニ展示

- |                                 |                        |
|---------------------------------|------------------------|
| (1)「江戸の紙・東京の紙」                  | 3/18 (土) ~ 5/14 (日)    |
| (2) ミニ展示「紙博のあゆみ」                | 5/30 (火) ~ 7/ 2 (日)    |
| (3)「紙のおもちゃ」                     | 7/15 (土) ~ 8/27 (日)    |
| (4)「抄紙会社150年一洋紙発祥の地・王子」         | 9/16 (土) ~12/17 (日)    |
| (5) ミニ展示「伝承切紙の正月飾り」             | 2024/1/6 (土)~2/25 (日)  |
| (6)「藩札から近代紙幣へー渋沢栄一、新壱万円札の顔となる！」 | 2024/3/16 (土)~5/12 (日) |

### 2、一般公衆への説明、助言、指導と図書利用

残念ながら、今年度も紙に関する知識の豊富な解説サポーターを館内に配置することが出来ず、来館者の質問、疑問については、その都度、学芸員が対応しました。今後は、ミュージアムトーク等も含め、解説する形式を変えて行うことも検討します。

今年度の図書室は、1,674名(対昨年度+656名)の利用がありました。例年開催しているイベント「夏休み図書室自由研究フェア」開催期間(7/15(土)~8/27(日))だけでなく、年間を通して利用者が増加しました。

レファレンスについては、図書室対応は87件(対昨年度△8件)、レファレンス協同データベースのアクセス数は19,477件(対昨年度△344件)でした。この他、図書室を充実させるために、継続的に受け入れている雑誌や統計の他、新たに図書を83冊(対昨年度△11冊)受け入れました。

なお、今年度は、図書管理システムの改修を実施し、ウェブ上で検索できる資料が増えました。

## II 紙に関する講演会、講習会、実演会の開催

### 1、各講演会

テーマ	会合名	講師	場所	開催日
「抄紙会社150年展について」	ミュージアムトーク	学芸員	紙博イベントホール	10/9
「王子製紙が王子町の選挙権を持っていた ―等級選挙と法人選挙権―」	抄紙会社150年記念講演会 I	黒川徳男氏	紙博イベントホール	11/3

「日本近代製紙業の創業と成立を振り返る」

抄紙会社150年記念講演会Ⅱ 学芸部長

紙博イベントホール 11/23

「藩札と越前・三岡八郎（由利公正）を巡って」 飛鳥山1日大学 学芸部長

北区飛鳥山博物館講堂 2024/1/21

## 2、講習会、実演会およびイベント

	担 当	開催日・参加者数
(1) 浮世絵手摺り実演・体験会	沼辺伸吉氏(摺師)	5/3(水・祝) 実演18名・体験9名
(2) 江戸唐紙実演・体験会	唐源(小泉幸雄・雅行氏)(唐紙師)	5/4(木・祝) 実演3名・体験13名
(3) 紙で楽しむこどもの日	学芸員	5/5(金・祝) 6組15名
(4) たんざくに願いを書こう 2023		6/20(火)～7/7(金) 227枚
(5) 夏休み図書室自由研究フェア	司書	7/15(土)～8/27(日) 199組455名
(6) 野菜から紙をつくろう	学芸員	7/27(木) 9名
(7) 自由研究「紙を知ろう」	学芸部長	8/10(木) 16名
(8) 親子で牛乳パック工作	学芸員	8/17(木) 7組13名
(9) 学芸員と歩く紙の工場跡地	学芸員	10/28(土) 12名
(10) 印刷博物館とのコラボレーションワークショップ 漉く・刷る 名刺	学芸員	2024/2/12(月・振休) 10名

## 3、紙すき教室

当館の人気イベント毎週土・日の紙すき教室は、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の5/13(土)から、感染対策を取りつつ、人数制限を緩和して行いました。平日の臨時紙すきと合わせて、123回、3,768名(昨年度は94回、2,333名)が参加されました。

その他、毎年恒例の日本製紙連合会主催のPAPER EXPOでの出張紙すきは、開催されませんでした。神保町ブックフェスティバルでの出張紙すきは、4年ぶりに10/28(土)に再開(2日間の予定が1日のみ開催)され、260名の参加者がありました。また、北区環境課が主催する、小学生対象の環境教育事業「省エネ道場」が、初めて当館で10/15(日)に開催されました。参加児童は17名でした。

#### 4、「かみはく友の会」の活動

今年度は、上期の6/15(木)に、小津和紙の見学会を行いました。参加者15名。

下期は企画展関連の「抄紙会社150年記念講演会I・II」に、会員希望者が参加されました。Iは6名、IIは10名参加されました。

年度末の会員数は、A会員(機関誌「百万塔」送付有)61名、B会員(同送付無)31名の計92名で、対昨年度+6名でした。

### III 機関誌および紙に関する書籍の出版、広告活動

#### 1、機関誌「百万塔」の発行

今年度は、第175号(6月)、第176号(10月)、第177号(2月)の3回発行しました。

#### 2、外部広告活動

2023年2月は抄紙会社設立から150年という節目でしたが、当館からの発信だけでなく、外部で制作する記念誌や動画などの関連事業に協力する事例が多数ありました(別紙「2023年度広報・掲載実績」参照)。

### IV 売店事業

今年度売上金額 6,441千円

### V 主要修繕、投資工事

1、4階展示ケース照明LED化工事	2,255千円
2、サーバー更新工事	1,210千円
3、トイレ自動水栓取替工事	550千円
4、学芸員室・地下通路照明LED化工事	457千円

以上